

科目名	作業療法概論Ⅰ						
担当講師	西城 学						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

作業療法の概略を学ぶ科目です。作業療法の歴史や原理を学び、「作業」の意味や「なぜ作業が治療となるのか」を考えていきます。そのうえで実践過程や各領域における実際を知り、理解を深めていきます。また、作業療法士になるために必要な法律や倫理について学び、作業療法士に必要な資質・適性についても考えていきます。

学修到達目標

1. 作業療法の歴史や原理を理解し、定義を説明することができる。
2. 作業療法でいう「作業」について説明することができる。
3. 作業療法の領域や対象を理解し、実践過程について説明することができる。
4. 関連する法律や倫理について理解し、作業療法士に求められる人間性について述べるすることができる。

授業計画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 「作業」の意味 |
| 第2回 | 作業療法の歴史と原理 |
| 第3回 | 作業療法の定義 |
| 第4回 | 作業療法の領域 |
| 第5回 | 作業療法の理論とプロセスモデル① |
| 第6回 | 作業療法の理論とプロセスモデル② |
| 第7回 | 作業療法士に求められる資質と倫理① |
| 第8回 | 作業療法士に求められる資質と倫理② |
| 第9回 | 作業療法士の教育と作業療法研究 |
| 第10回 | 作業療法の実践過程① |
| 第11回 | 作業療法の実践過程① |
| 第12回 | 作業療法の実践過程②/評価と問題点の抽出 |
| 第13回 | 作業療法の実践過程③/治療プログラム立案・フォローアップ |
| 第14回 | 作業療法の実践過程④/臨床思考過程と作業療法士の自己活用 |
| 第15回 | 作業療法の実際 |

評価方法

筆記試験（80％） レポート課題（20％）

教科書

標準作業療法学 作業療法概論（医学書院）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後にも30分以上の学習。

実習につながる内容が多く含まれていますので理解を深めるように。

科目名	基礎作業学						
担当講師	細越 友貴						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、精神科領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義	グループワーク	グループ発表	実習			

授業概要

作業活動を通して、ヒトへ作業が与える影響を学ぶ。
 作業活動を利用する上での基礎知識と技能を学ぶ。

学修到達目標

1. 作業の定義、作業の分類について説明することができる。
2. 人、環境、作業の関係性について説明することができる。
3. 各作業活動の基礎知識と技法を述べるることができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 作業の定義、作業の分類 |
| 第2回 | 作業の定義、作業の分類 |
| 第3回 | 人と作業の関係性 |
| 第4回 | 人と作業の関係性 |
| 第5回 | タイルモザイク |
| 第6回 | タイルモザイク |
| 第7回 | 作業のふりかえり（タイルモザイク） |
| 第8回 | マクラメ |
| 第9回 | マクラメ |
| 第10回 | 作業のふりかえり（マクラメ） |
| 第11回 | デコパージュ |
| 第12回 | デコパージュ |
| 第13回 | 作業の振り返り（デコパージュ） |
| 第14回 | 各作業のまとめ（グループワーク） |
| 第15回 | グループ発表 |

評価方法

筆記試験（70％） レポート課題（30％）

教科書

基礎作業学（協同医書出版社） 作業—その治療的応用（協同医書出版）

参考図書・文献

プリント配布

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実習においては、その都度、文献を参照しながら分析の視点を広げられる取り組みに努めること。

指示の内容に沿って物品管理、適切な道具の取扱いを行うこと。

実習の進行に遅れがある場合には科目担当に相談し、次の講義までに不足分を補えるよう行動すること。

【専門分野】

【作業療法学科】

科目名	基礎作業学実習Ⅰ						
担当講師	田中 弘美 細越 友貴						
実務経験の概要	田中 弘美 : 作業療法士。医療施設、発達領域施設において実務経験を有する。 細越 友貴 : 作業療法士。医療施設、精神科領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク 発表 実習 オムニバス						

授業概要

作業活動の経験を通し、作業の特性を知り、治療的応用につなげることを目的としています。そのために作業分析、工程分析、手法を理解し、実際分析を行ないます。

学修到達目標

1. 作業活動を通し、作業が人体に与える影響を体感し、それを述べることができる。
2. 作業を分析し、治療への応用について説明することができる。
3. レクリエーションの計画・準備・実施を他者と協力して行なうことができる。

授 業 計 画

第1回	基礎作業学実習Ⅰオリエンテーション	細越友貴
第2回	木工オリエンテーション	細越友貴
第3回	木工	細越友貴
第4回	木工	細越友貴
第5回	木工	細越友貴
第6回	木工	細越友貴
第7回	作業分析（木工）	細越友貴
第8回	作業分析（木工）	細越友貴
第9回	革細工オリエンテーション	田中弘美
第10回	革細工	田中弘美
第11回	革細工	田中弘美
第12回	革細工	田中弘美
第13回	革細工	田中弘美
第14回	作業分析（革細工）	田中弘美
第15回	作業分析（革細工）	田中弘美
第16回	レクリエーション体験と振り返り	田中 細越
第17回	レクリエーションの定義	細越友貴
第18回	レクリエーションの治療的視点	細越友貴
第19回	レクリエーション実習計画	細越友貴
第20回	レクリエーション実習準備	細越友貴
第21回	レクリエーション実習	田中 細越
第22回	レクリエーション実習	田中 細越
第23回	実習フィードバック	田中 細越

評価方法

課題レポート（50％） 課題作品（50％）

教科書

配付資料あり

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

レクリエーションについては講義時間外にも計画・準備を行って下さい。

科目名	作業療法評価学総論						
担当講師	高橋 正基						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク 実技						

授業概要

評価とは、すべての処置の先行として実施されるもので、治療・訓練・介入を行うための基礎であり不可欠な過程です。ここでは、作業療法評価の枠組みの学習や作業療法領域に係わる情報収集方法を学びます。

学修到達目標

1. 作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを説明できる。
2. 評価の時期や手段、記録の管理を理解することができる。
3. 作業療法評価における記録と責任について説明できる。
4. 評価の妥当性・信頼性について説明することができる。
5. 効果判定について、概略を説明できる。
6. 意識やバイタルサインについて理解し、確認することができる。
7. 形態計測について理解し、計測することができる。
8. 関節可動域測定について理解し、基本的な測定をすることが出来る。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 評価とは |
| 第2回 | 作業療法の過程 |
| 第3回 | 情報収集 |
| 第4回 | 作業療法評価の目的と手順、手段 |
| 第5回 | 評価のまとめと問題点、利点の抽出 |
| 第6回 | 作業療法の効果判定 |
| 第7回 | 記録・報告 |
| 第8回 | 意識の評価 |
| 第9回 | バイタルサイン |
| 第10回 | 形態計測 |
| 第11回 | 関節可動域測定（概要） |
| 第12回 | 関節可動域測定（肩甲帯、肩、肘） |
| 第13回 | 関節可動域測定（前腕、手、母指、手指） |
| 第14回 | 関節可動域測定（股関節、膝、足） |
| 第15回 | 関節可動域測定（頸部、体幹） |

評価方法

筆記試験（80％） 実技試験（20％）

教科書

作業療法評価学（医学書院）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適宜提示された課題は確実に学習してください。技術の習得には日々の研鑽が不可欠ですので復習を怠らないようにしてください。

科目名	日常生活活動学概論						
担当講師	竹田 敦子						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習						

授業概要

日常生活活動の概念と範囲を学ぶ。
生活を構成する諸活動の基本的な特性について学ぶ。

学修到達目標

1. 日常生活活動の概念と範囲を述べることができる。
2. 各基本的ADLの意味・特性についてまとめ、説明することができる。
3. 各生活関連活動の意味・特性についてまとめ、説明することができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | 日常生活活動の概念と範囲 |
| 第2回 | 日常生活活動とICF分類 |
| 第3回 | 各領域における日常生活活動のとらえ方 |
| 第4回 | 基本的ADLの意味・特性（起居・移動） |
| 第5回 | 基本的ADLの意味・特性（食事） |
| 第6回 | 基本的ADLの意味・特性（整容） |
| 第7回 | 基本的ADLの意味・特性（排泄） |
| 第8回 | 基本的ADLの意味・特性（更衣） |
| 第9回 | 基本的ADLの意味・特性（入浴） |
| 第10回 | 生活関連活動の意味・特性（炊事） |
| 第11回 | 生活関連活動の意味・特性（洗濯） |
| 第12回 | 生活関連活動の意味・特性（掃除） |
| 第13回 | 生活関連活動の意味・特性（買い物） |
| 第14回 | 生活関連活動の意味・特性（公共交通機関利用） |
| 第15回 | 生活関連活動のまとめ |

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

日常生活活動の作業療法（中央法規） 姿勢と動作（メジカルフレンド）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

普段あたり前に行っている生活をあらためて意識し各作業を丁寧に振り返ってみましょう。

科目名	臨床見学実習							
担当講師	西城学	細川康紀	岡崎謙治	高橋正基	田中弘美	竹田敦子	細越友貴	山川志野
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細越 友貴 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。							
履修年次	1	単位数	1	時間数	45	開講時期	前期	
授業形態	実習							

授業概要

臨床で働く作業療法士の業務を見学し、自身の将来像をイメージすることで学習の動機付けを目的としています。また、見学する施設の特徴や役割を確認し、そこで働く多職種の業務と作業療法士との関わりを知ることも目的としています。

学修到達目標

1. 実習施設の特徴や役割について確認し、その意義について述べることができる。
2. 作業療法士の業務内容を確認し、その施設での作業療法士との役割を述べることができる。
3. 作業療法士が関わる対象者を通し、疾患、障害による生活への影響を述べることができる。
4. 実習施設内での多職種業務と作業療法士との関わりを確認することで、多職種との連携の意義を述べることができる。
5. 作業療法学生としての基本的態度を身につける。
6. セミナーを通し、他学生の気付きを聞き、さらに自身の考えを深め、述べることができる。

授業計画

実習期間

令和6年9月19日(木)～令和6年9月26日(木) (5日間)

実習施設

県内の病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション事業所

実習内容

1. 事前に調べた実習施設の特徴や役割を確認する
2. 作業療法士の業務を見学し、作業療法士の役割を確認する
3. 作業療法士が関わる対象者を通して、疾患、障害がどのように生活に影響を与えているかを確認する
4. 作業療法士と多職種との関わりについて確認する
5. 自身の基本的態度を振り返り、修正する
6. 臨床見学実習報告書を作成し、それをもとにセミナーでの発表と提出をする

実習後セミナー

- ・見学してきた内容をまとめ、発表する。
- ・実習に関連したテーマに基づきグループで話し合う。

・実習を通しての気づきや自己課題について、今後どのような取り組みを行うか考えまとめる。

評価方法

実習地評定（30％） セミナー評定（30％） 実習報告書（40％）を踏まえて総合評価を行います

教科書

なし （配布資料あり）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

見学実習を通し、様々な気づきや疑問を大切にしてください。それが今後の専門科目の学習につながっていきます。
実習目的、行動目標をしっかりと理解したうえで臨んでください。